

## 2022 年度事業報告

### 1. 会議

定時社員総会	3月27日
臨時社員総会	11月17日
総会	11月18日
理事会	3月27日, 7月2日, 10月22日
常任理事会	6月22日, 7月23日, 10月13日

2. 学術集会 第69回学術集会 11月17日～11月20日（宇都宮）

3. 刊行物 機関紙：日本臨床検査医学会誌 第70巻1～12号 Supplement：第70巻補冊  
英文誌：Laboratory Medicine International 誌 第1巻1号

### 4. 臨床検査専門医（機構・学会）、管理医 認定

臨床検査専門医認定試験	8月7日（帝京大学）
臨床検査専門医・管理医更新	1月1日
臨床検査管理医講習・認定試験	9月4日（順天堂大学）

### 5. 会員数

	2020年度 (12/31 会費納入済数)	2021年度 (12/31 会費納入済数)	2022年度 (12/31 会費納入者数)
総会員数	3,418名 (2,462名)	3,223名 (2,579名)	3,096名 (2,764名)
正会員	3,155名 (2,289名)	3,006名 (2,373名)	2,862名 (2,546名)
(評議員)	(209名) (201名)	(200名) (200名)	(185名) (181名)
学生会員	93名 (55名)	59名 (57名)	66名 (62名)
名誉会員	37名	36名	41名
功労会員	133名 (81名)	122名 (113名)	127名 (115名)
賛助会員	35社 (35社)	36社 (36社)	36社 (36社)

・各年度12月31日の会員数

### 6. 関連団体（事業）

- 1) 日本臨床検査専門医会 {第32回春季大会（鹿児島）：5月20日～21日}
- 2) 日本臨床検査標準協議会（シンポジウム：1月）
- 3) 日本臨床検査同学院（臨床検査士資格認定試験：二級・緊急・一級、遺伝子分析科学  
認定士資格認定試験：初級・一級、POCT測定士認定試験）
- 4) 日本臨床化学会 {第62回年次学術集会（富山）：9月30日～10月2日}
- 5) 日本医療検査科学会 {第54回大会（神戸）10月7日～9日}
- 6) 世界病理学・臨床検査医学会連合会（WASPaLM）  
{第31回 WASPaLM World Congress（ウルグアイ）：9月29日～10月2日}
- 7) アジア臨床病理・臨床検査医学会（ASCPaLM）  
{第17回アジア臨床病理・臨床検査医学会（神戸）：10月7日～9日}
- 8) 認定検査技師機構, 9) 日本専門医機構, 10) 臨床検査振興協議会
- 11) 各種制度審議会・協議会

## 事業報告書

2022年1月1日から2022年12月31日まで

### I 事業の概況

#### 1 事業の経過及び実績

##### (1) 社会公共性への取組み

日本臨床検査医学会は、一般社団法人として、積極的に社会公共性を意識した活動を展開しています。「臨床検査」は医療の根幹を成すものであり、今般の新型コロナウイルス感染症の蔓延においては、検査の重要性が社会的にも大きな注目を集めました。また、遺伝子・ゲノム関連検査の開発・発展は著しく、今後「臨床検査」の重要性はますます高まっていくと考えられます。2017年に成立し、2018年12月1日から施行された改正医療法では、このような状況に応じ、特に検体検査の精度担保の必要性が明確化されております。

以上の状況に鑑み、本学会は、学術集会や学会誌等における臨床検査の社会的役割についての啓発活動の継続、標準化活動の推進、各種ガイドライン・指針の策定、臨床検査の臨床的価値・社会的有用性に関する客観的データの提示と提言などを通じて、臨床検査の視点から日本の医療の質向上に寄与しています。

また、医療行為としての「臨床検査」という領域は、日本専門医機構により19ある基本領域のひとつと定義され、2018年度からスタートした基本領域臨床検査専門研修の実施により、同機構専門医が2021年度には3名、2022年度には11名誕生しております。有能な臨床検査専門医の社会ニーズは益々高まると考えられ、継続的な育成を行ってまいります。

##### (2) 学会活動

学会の事業の一環として、①2022年11月17日～11月20日に宇都宮市で第69回学術集会を開催、②機関誌として、国内誌「日本臨床検査医学会誌」(第70巻)を年12回刊行すると共に、かねてより準備中であった、国際誌「Laboratory Medicine International」の第1巻第1号を12月に発刊しております。③臨床検査に関連する各種委員会の開催、④「臨床検査専門医」、「臨床検査管理医」試験実施、⑤臨床検査士及び細胞検査士に係る資格認定、などを行いました。前年度に引き続き、「新型コロナウイルスに関するアドホック委員会」、「地域の臨床検査に関するアドホック委員会」は活動を継続しております。また、臨床検査における人工知能(AI)の活用、ビッグデータとしての臨床検査結果活用をめざし「統合システムに基づく臨床検査のあり方委員会」が組織されております。ガイドライン作成委員会では今回で8回目の改訂となる「臨床検査のガイドラインJSLM2024」の発刊に向け、活動を開始しました。そのほか、研究の奨励・研究業績の表彰、関係学術団体との連絡・協力、国際的な研究協力の推進など、幅広い活動を展開しております。

##### (3) 各種委員会活動(別紙<報告事項:第1号議案-2>)

### 2 対処すべき課題

#### (1) 学会活動の活性化

理事長挨拶で謳われているように、「本学会は、すべての医学・医療分野に関わる臨床検査を学術的な立場から先導していく役割を担っています」。人々の健康増進と疾病予防、疾病の早期発見・治療に有用な臨床検査の開発、等に供する臨床検査医学の研究成果を得るために、学会活動を更に活性化する必要があると考えています。学術集会の開催、機関誌の発刊、各種委員会の活動、等はこの具体的な対応です。さらに、学会賞や学術推進プロジェクトによる会員の研究活動の推進は、次世代の臨床検査医学の研究を担う若手研究者の育成の一環です。

新型コロナウイルス感染症については、引き続き、感染制御と社会経済活動のための検査の利用促進、診療支援、研究、教育・啓発それぞれで活動を活発に推進してまいります。

また、臨床検査に関する社会への啓発活動として、保険診療としての臨床検査が適正に評価されるための活動も重要と考えており、日本臨床衛生検査技師会をはじめとする関連団体や他学会とも有機的に連携をとりながら継続的に議論しております。

## (2) 社会が求める臨床検査専門医・臨床検査管理医の養成

社会に役立つ質の高い臨床検査専門医・臨床検査管理医数の増加が必須です。検体検査管理加算、国際標準検査管理加算などの診療報酬上の評価、臨床検査の品質・精度の確保に係る改正医療法で求められる業務、医療機関の安全管理と標準化に関わる報告業務など、臨床検査を担う部門のあるべき姿は学会発行のガイドラインに示されています。これを的確に管理する能力をもった臨床検査専門医・臨床検査管理医の養成は本学会の責務です。臨床検査専門医をめざす多くの専攻医を確保し育成する努力が求められます。臨床検査管理医については、教育講習と認定試験の改善について検討を続けております。また、前年度に発足した「地域医療における臨床検査に関するアドホック委員会」の活動も継続して参ります。さらに、新型コロナウイルス感染のパンデミックにより社会的に需要が急速に増大した遺伝子関連検査について、専門的知識や技能を備えた臨床検査医の育成も急務となっています。

## (3) 社会が求める臨床検査に関わる倫理観の向上

2012年以降の学術集会において、全発表に利益相反状態の開示を義務づけており、今期はその具体的な運用強化を図っています。役員や委員会委員長就任時、学術集会等での発表および論文投稿時の利益相反の報告やその取扱い等については、「医学研究の利益相反（COI）に関する細則」に従い、2015年度より実施しています。

## 3 設備投資の状況

当期における資産の取得状況はありません。

## II 法人の概況

### 1 主な事業内容

本法人は、臨床検査医学（臨床病理学）に関する学理及びその応用についての研究発表、知識の交換、会員相互及び内外の関連学会との連携協力等を行うことにより、臨床検査医学（臨床病理学）の進歩・普及を図り、もってわが国の学術の発展に寄与することを目的として次条の事業を行う。

- ① 総会、講演会、学術集会の開催
- ② 学会機関誌、学術図書及びその他の刊行物の発行
- ③ 学会認定臨床検査専門医、名誉臨床検査専門医、臨床検査管理医の資格認定
- ④ 臨床検査士およびその他の臨床検査に係わる資格認定
- ⑤ 世界病理・臨床検査医学会連合〔World Association of Societies of Pathology and Laboratory Medicine (WASPaLM)〕、アジア臨床検査医学会連合〔Asian Societies of Clinical Pathology and Laboratory Medicine (ASCPaLM)〕ほか内外の関連諸学術団体・協会との連絡並びに協力活動
- ⑥ その他本法人の目的を達成するために必要な事業

2 社員（2022年12月31日現在）：185名

3 役員（2022年12月31日現在） 23名

理事	大西 宏明	(理事長)
	田部 陽子	(副理事長)
	谷 直人	
	古川 泰司	
	木村 聡	
	日高 洋	
	松下 一之	
	満田 年宏	
	森兼 啓太	

吉田 博  
井上 克枝  
下 正宗  
堀田多恵子  
矢富 裕  
高橋 聡  
志村 浩己  
東田 修二  
伊藤 弘康  
山崎 正晴  
大澤 春彦  
柳原 克紀  
古田 耕  
諏訪部 章

監事

- 4 決算期後に生じた法人の状況に関する重要な事実  
記載すべき事項は、ありません。

## 2022 年度 日本臨床検査医学会 各種委員会 活動報告

### 1) 学術推進化委員会（委員長：浅井さとみ、担当理事：矢富 裕）

- ①2020 年度採用 学術推進プロジェクト研究課題の最終報告会（2 題）学術集会にて実施（2022 年 11 月 19 日）
- ②2021 年度採用 学術推進プロジェクト研究課題の中間報告を受理
- ③2022 年度 学術推進プロジェクト研究として 2 課題を採択
- ④学術推進プロジェクト研究の募集要項に間接費について追記  
投稿受付は学術推進化委員会事務局でまず確認
- ⑤2023 年度学術推進プロジェクト研究課題を募集（受付期間 2023 年 1 月 10 日～3 月 31 日）
- ⑥学術推進プロジェクト活性化のための戦略を検討

### 2) 編集委員会（委員長：吉田 博、担当理事：谷直人）

- ①2021 年度発行の本学会機関誌に出版された論文を対象に優秀論文賞の審査を行い、二名の受賞者を選考決定した。
- ②論文掲載時ではなく論文投稿時に会費を納入するよう投稿規定の改定を行った。
- ③英文誌 Laboratory Medicine International (LMI)の創刊号（1 巻 1 号）を 2022 年 12 月 28 日に発刊し、英文誌用の投稿案内について HP を整備した。
- ④英文誌論文投稿システム ScholarOne Manuscripts の要件を検討した。なおシステムは 2023 年 3 月 10 日を目途に本稼働予定である。
- ⑤投稿論文の論文審査について検討を行った。
- ⑥日本臨床検査医学会誌のトピックスの立案を行った。
- ⑦編集委員会（Web 会議）は今年度 4 回実施された。
- ⑧編集委員会規定を整備した。

### 3) 教育委員会（委員長 植木重治、担当理事 木村 聡）

- ①【共催】第 6 回医学生のための臨床検査ハンズオンセミナー（臨床検査領域講習 2 単位、2022 年 8 月 21 日 PM web 開催、主催：ワークライフバランス委員会、近畿支部）松本剛、中村文彦、山口宗一、金子誠、常川勝彦、植木重治
- ②【第 69 回日本臨床検査医学会学術集会 教育委員会企画】
  - ・RCPC 1（臨床検査領域講習 1 単位）日時：11 月 19 日（土）14：40～16：10、座長：松本剛、演者：松本剛
  - ・RCPC 2（臨床検査領域講習 1 単位）日時：11 月 19 日（土）16：20～17：50、座長：上岡樹生、中村文彦、演者：上岡樹生
  - ・Catch Up セミナー（臨床検査領域講習 3 単位：各 1 単位）日時：11 月 20 日（日）13:10～16:10、座長：小飼貴彦、山口宗一
    - a)前田士郎 先生（琉球大学）ヒトゲノム解析が臨床検査領域に与えるインパクト
    - b)井上克枝先生（山梨大学）血小板活性化受容体 CLEC-2 の同定と機能からその臨床応用まで
    - c)小川正浩 先生（福岡大学）臨床心電学の進歩と不整脈治療
- ③厚労省の医師臨床研修制度に対するアンケート(9 月)、教育委員会からのアンケート返答案を作成
- ④【常設 e-learning】  
e-learning コンテンツのスライドの様式と作成要綱を修正し、作成者に依頼中。

### 4) 臨床検査点数委員会（委員長：松下一之、担当理事：古川泰司）

- ① 委員会開催：第 1 回委員会：7 月 13 日（WEB 開催）
  1. 令和 6 年度の改訂に向けた活動；

1)提案書作成の準備（今年度末頃；日本臨床検査専門医会とも協働）、2)要望アンケートとコスト調査（日本臨床検査振興協議会と調整）、3)新規の保険点数の要望調査、4)臨床検査のAI化、統合システム化への対応、5)医療技術評価報告書作成（前回改定で対応のあった16項目）、医療技術評価提案書作成（28項目）、6)委員会規定案細則の追記、委員会名称変更の提案。

## 2. その他。

「不明熱診断に対するFDG-PET/CT検査の保険適用」について日本核医学会との共同提案。

- ②日本臨床検査振興協議会への参加：診療報酬改定小委員会（7-11月に、3回開催）。
- ③日本医師会・疑義解釈委員会への対応：現在のところ異議申し立ては行われなかった。
- ④新規保険収載項目の情報提供：日本臨床検査薬協会との共同作業。

## 5) 学会賞委員会（委員長：飯沼由嗣、担当理事：井上克枝）

- ①2022年8月10日（火）にZoom開催された学会賞選考委員会で受賞候補者を選出し理事会に報告、理事会にて受賞者が決定された。受賞者は下記の通りである。学術賞（木村孝穂氏）、検査・技術賞（鈴木敦夫氏）、若手研究者奨励賞（中野恵一氏）、優秀論文賞（松村憲浩氏、黒田哲也氏）。
- ②日本臨床検査医学会学会賞・功労賞に関する規定の一部変更について、理事会での審議を依頼した。

## 6) 標準化委員会（委員長：三井田孝、担当理事：日高 洋）

- ①C ペプチドの標準化に向けて、浜松医科大学と順天堂大学が中心となって実施計画を作成し所属機関の倫理委員会の審査を受ける予定である。試薬メーカーの参加は日本臨床検査薬協会を通じて募集を行う。

## 7) 精度管理委員会（委員長：小池由佳子、担当理事：堀田多恵子）

- ① CAP 国際臨床検査成績評価プログラム中間報告：2022年度サーベイ参加施設数は184施設であり、昨年と比較して14施設減であった。参加中止施設全体の63%が新型コロナウイルス関連検査の参加施設であった。  
また、本年度は10月21日より顧客満足度調査を実施した。送付総数：180施設、回答総数：37施設、回答率21%であり、例年の回答率60~70%と比較すると低い回答率となった。今回は解答形式を全て電子回答にしたことが原因の一つである可能性があり、回答形式に関しては次回の調査までに委員会において改めて検討していくこととした。
- ②「臨床検査室グローバルニュース」報告：季刊誌として年4回ペースで発行している。2022年5月25日に春号、8月25日に夏号、11月25日に秋号を発行した。現在は、2023年2月25日に発行予定の冬号の記事の確認、英文翻訳の校閲が完了したところである。委員会では引き続き、記事の確認と英文翻訳の校閲を行っていく予定である。

## 8) EBLM 委員会（委員長：佐藤正一、担当理事：田部陽子）

- ①7月5日第1回 EBLM 委員会を開催し、委員長、担当理事、委員の交代の紹介、EBLM 委員会HPの更新および今年度の教育セミナーについて会議を行った。
- ②11月18日第2回 EBLM 委員会を開催し、2023年度検査医学会のセミナー案の検討を行った。
- ③11月19日の総会にてEBLM 委員会企画・教育セミナーを開催した。テーマ：「臨床検査に必須の誤差要因分析」佐藤と市原で講演を行った。

## 9) 倫理委員会（委員長：木村孝穂、担当理事：古川泰司）

- ①2022年6月群馬大学主管で開催された第69回全国国立大学法人病院検査部会議において前委員長（現在も委員継続中）が「医療倫理における検査部の役割：既存資料の研究、業務、教育のための使用について」の講演を行った。
- ②第69回日本臨床検査医学会学術集会にて講演会「臨床検査医学領域の倫理的課題と今後の展望」

を企画し開催した。

- ③一般社団法人 日本臨床検査医学会 細則に追記する倫理委員会規定案を作成した。

#### 10) 利益相反委員会（委員長：山崎正晴、担当理事：古川泰司）

- ①本年度に、「企業から複数年にわたり共同研究費が提供され、単年度では100万円以下となるが、合計では100万円を超える場合のCOI自己申告書の記載」について複数問い合わせがあったことを受け、同申告書の書式変更を協議している。
- ②本会の利益相反細則に、学術集会において企業の社員が単独の成果を発表する際のCOI開示方法について追記することを協議している。

#### 11) ガイドライン作成委員会（委員長：田中靖人、担当理事：吉田 博）

- ①2022年度の第69回学術集会における委員会企画として、「臨床検査のガイドライン2021の概要とトピックス」をテーマにして開催した。
- ②第69回学術集会期間中（2022年11月18日）に第1回目のガイドライン作成委員会を開催した。臨床検査のガイドラインJSLM2024に向けた今後の予定、項目の変更・追加、執筆者の確認が行われた。
- ③日本臨床検査医学会 細則にガイドライン作成委員会規定が追記された。
- ④今年度は計10件の転載許諾依頼があり、内容を確認の慎重に検討し許諾した。
- ⑤2022年9月17日に行われた日本医療機能評価機構による【Minds】第24回診療ガイドライン作成に関する意見交換会に田中委員長が参加した。

#### 12) 検査項目コード委員会（委員長：内海 健、担当理事：松下一之）

- ①JLAC10コードについて、臨床検査項目として、分析物コード；新規20件、変更3件、削除5件、識別コード；新規6件、測定法コード；変更2件、結果識別（固有）コード；新規247件、変更28件を実施した。
- ②「JLACコード付番委員会」で新規体外診断薬を中心にしてJLACコードの付番を行っている2022年は、130件の付番を行った。
- ③日本臨床検査医学会ホームページ上で情報を公開し随時更新している。

#### 13) 広報委員会（委員長：木村 聡、担当理事：✕谷直人）

- ①2023年春の日本医学会総会で展示される「一般市民向けポスター」を作成。  
りんしょう犬さんによる検査業務の紹介や全国から応募のあった検査室スタッフの写真を掲載した。開催期間中に東京丸の内の地下通路で他学会ポスターとともに掲示予定。
- ②神戸で開催されたJACLaS EXPO 2022で臨床検査医学会のブースを設営。
- ・新型コロナウイルス感染症検査に関する日本臨床検査医学会からの提言（学会HP掲載のアドホック委員会COVID-19に関する提言）を印刷物とQRコード掲示で啓発。
  - ・11月の日本臨床検査医学会年次学術集会のポスターを掲示。
  - ・臨床検査専門医資格取得のメリットについて展示と印刷物配布（専門医会と共催）。

#### 14) 臨床検査室医療評価委員会（委員長：松下弘道、担当理事：堀田多恵子）

- ①日本医学会連合門田班（臨床内科グループ）からの調査研究事業（新型コロナウイルス感染症における直接的な健康影響及び他の疾患の医療に与えた影響の調査に関する研究）の依頼に基づき、2022年11/12月に全国の医療機関に対しアンケート調査を実施し、その報告書を作成した。
- ②第70回学術集会におけるISO/TC 212/WG1によるISO 15189の改訂に関する教育的講演の企画提案を行った。

#### 15) 遺伝子委員会（委員長：松井啓隆、担当理事：松下一之）

- ①日本臨床薬理学会「診療における薬理遺伝学検査の運用に関する提言」に対する意見の取りまとめを実施し、学会理事会に提出した。
- ②Direct to Consumer (DTC)による全ゲノム解析サービスに対する意見集約を実施し、学会を介してゲノム・遺伝子関連学会および団体との意見交換を実施した。
- ③「良質かつ適切なゲノム医療を国民が安心して受けられるようにするための施策の総合的な推進に関する法律」の早期成立に向けた支援依頼に対して意見交換を実施し、学会としての賛同に寄与した。
- ④2022年度学術集会において、委員会企画「これからの遺伝子関連検査」を開催した。
- ⑤学会によるゲノム関連検査教育ワーキンググループにメンバーとして参画し、遺伝子検査領域の教育コンテンツ拡充に関する意見交換を行った。
- ⑥Laboratory Development Test (LDT)評価ワーキンググループにメンバーとして参画し、国内におけるLDTの定義やあり方に関する意見交換を行った。
- ⑦その他、委員会委員より寄せられたセミナー等の案内を学会会員に周知した。

#### 16) 国際委員会（委員長：下澤達雄、担当理事：井上 克枝）

- ①2022 年度国際学会奨励賞受賞候補者を選考し、紺野沙織、畑山祐輝の 2 氏を受賞者として推薦した。
- ②World Association of Societies of Pathology and Laboratory Medicine (WASPaLM) 2022 (Sep 29-Oct 2, 2022、ウルグアイ)におけるJSLMセッションRecent Progress and Novel Perspective in Clinical Laboratory Medicineにて、宮地勇人理事 (Quality Assurance of NGS-Oncology Tests through Laboratory Accreditation with on-site Evaluation)、村上正巳理事 (Molecular Mechanism of Triglyceride Metabolism)、下澤達雄国際委員会委員長(Urine tells us what is happening in the body) が講演を行った。
- ③第 17 回 ASCPaLM(10 月 7 日から 9 日神戸 会長;宮地理事)におけるシンポジウム I 'Impacts of quality laboratory practice on SDGs'に津山直子先生、シンポジウム II 'Preparedness for the next-pandemic'に山本和子先生に依頼し、各先生方が講演を行った。

#### 17) 医療安全委員会（委員長：三枝 淳、担当理事：森兼啓太）

- ①2022 年 11 月 20 日（日）9：00-11：00、第 69 回学術集会において、シンポジウム（委員会企画）「検査に関わる患者とのトラブル」を開催した。《演者：遠山信幸先生、石坂裕子先生、山内由里子先生、座長：森兼啓太、三枝 淳》
- ②第 69 回学術集会会期中に医療安全委員会を現地開催した。  
次年度以降の委員会企画について検討した。
- ③第 12 回特別例会（第 31 回日本医学会総会 2023 東京）において、シンポジウム「タスクシフト / シェアと医療安全」を企画した。《演者：森兼啓太先生、井本寛子先生、益田泰蔵先生、座長：森兼啓太、三枝 淳》
- ④その他  
一般社団法人日本医療安全調査機構「医療事故調査・支援センター」説明会に三枝が参加した。

#### 18) 会則改定委員会（委員長：田部陽子、担当理事：✕谷直人）

- ①一般社団法人 日本臨床検査医学会定款 第 5 章 社員総会 の改定案を作成し、2022 年度臨時社員総会において承認された。
- ②一般社団法人 日本臨床検査医学会 細則 の委員会規定の追記・改定案を作成した。本改定案を、理事会の審議に諮る。

#### 19) チーム医療委員会（委員長：小谷和彦、担当理事：田部陽子）

- ①「地域連携の中での臨床検査の位置づけと臨床検査専門家の役割」に関してチーム医療を焦点に

して委員会内討議を行った。

- ②「パニック値」の運用に関して提言を公開し、各方面からの質疑応答を行っている。現在、この公開後におけるパニック値の状況について全国施設調査を実施中である。
- ③第 69 回学術集会において委員会企画「地域連携における臨床検査の貢献」を行なった。

#### 20) 学術集会企画委員会（委員長：柳原克紀、担当理事：日高 洋）

- ① 第 69 回学術集会期間中の 2022 年 11 月 19 日（土）に委員会を開催した。
- ② 第 70 回学術集会を 2023 年 11 月 16 日（木）～19 日（日）の予定で長崎市（会長：柳原克紀）にて開催予定。現地での開催の承諾を得た。
- ③ 第 71 回学術集会は 2024 年 11 月 28 日（木）～12 月 1 日（日）の日程で大阪市（会長：日野雅之）にて現地&オンデマンド開催予定。
- ④ 学術集会の運営会社固定に関しては、第 72 回の学術集会から運営会社を固定する案を提案することとした。

#### 21) ワークライフバランス委員会（委員長：西川真子、担当理事：田部陽子）

- ①臨床検査専門医取得に関するサポートセンターで、18 件の問い合わせに対応した。また「臨床検査専門医研修 専攻医受入れ体制についてのアンケート（基幹施設向け）」を 2023 年 2 月～3 月に実施した。（千葉泰彦 委員）
- ②第 6 回 ハンズオンセミナーを Web 開催した（8 月 21 日（日）、共催：近畿支部、教育委員会、日本臨床検査専門医会）。（担当：松本剛 委員、西川真子委員）
- ③第 69 回学術集会でワークショップ(臨床検査医として遺伝子関連検査に関わろう！)を実施した。（担当：朝比奈彩委員、岩泉守哉委員、増田亜希子委員）。

#### 22) 統合システムに基づく臨床検査のあり方委員会（委員長：田部陽子、担当理事：田部陽子）

- ①PHR（Personal Health Record）事業者団体（経産省系）会議が開催され、推奨設定反映データ基盤を議論した（8 月 10 日）。
- ②臨床検査を含む医療データのコード標準化対応を目的とした AMED 中島班「医療施設における標準コードの効率的なマッピング手法に関する調査および実証研究」に湯地副委員長がオブザーバー参加。
- ③2022 年度第 1 回委員会を開催（11 月 19 日）。
- ④第 12 回日本臨床検査医学会特別例会にて「シンポジウム 1・ビッグデータとしての臨床検査情報」を開催予定。（2023 年 4 月 22 日）

#### 23) 新型コロナウイルスに関するアドホック委員会（委員長：柳原克紀）

- ①2022・2023 年度の委員の変更を行った。
- ②第 69 回学術集会において委員会企画としてシンポジウム「新型コロナウイルス検査の現状と課題」を行った。
- ③第 69 回学術集会会期中の 2022 年 11 月 18 日に委員会を開催し、COVID-19 に対するこれまでの総括と、今後への備えに向けた意見交換を行った。

#### 24) 地域医療における臨床検査に関するアドホック委員会報告

（委員長：小谷和彦、担当理事：森兼啓太）

- ①委員会の開催；臨床検査専門医の地域分布に関する情報収集の体制づくり、および地域医療における同専門医の貢献内容についての検討。
- ②第 69 回学術集会における委員会企画「地域医療に貢献する臨床検査専門医：偏在と確保の視点」の開催。会期中に各支部担当者が参集した上での会議の実施。

**25) ICD-11 委員会（委員長：末岡榮三朗、担当理事：吉田 博）**

- ①ICD11 和訳タスクフォース委員会の活動を引き継ぎつつ ICD-11 委員会と改称した。
- ②委員会ミーティングを 2 回実施した。（2022 年 8 月 8 日、2022 年 11 月 18 日）
- ③厚生労働省から依頼のあった ICD-11 改正内容および ICD-11 for MMS の追加・変更分の和訳の確認作業について回答を行った。
- ④細則に追記する委員会規定案を作成し、会則改定委員会に提出した。
- ⑤第 70 回学術集会でシンポジウム企画を提案した。

**26) 受験・更新資格審査委員会（委員長：三宅一徳）**

- ①2022 年度臨床検査専門医、臨床検査管理医の受験希望者の受験資格について審査を行い、臨床検査専門医・管理医審議会に報告した。
- ②2023 年 1 月 1 日付け臨床検査管理医、学会臨床検査専門医の更新資格についての審査を行い、臨床検査専門医・管理医審議会に報告した。

**27) 試験委員会（委員長：山田俊幸）**

- ①第2回日本専門医機構認定臨床検査専門医試験ならびに第39回日本臨床検査医学会認定臨床検査専門医試験を8月7日に帝京大学霞ヶ関キャンパスで実施した
- ②第14回臨床検査管理医講習・試験を9月4日に順天堂大学で実施した。

**28) Subspecialty検討委員会（委員長：吉田 博）**

- ①昨年度まで臨床検査専門医制度検討委員会の下部組織としてあったSubspecialty検討小委員会は、今年度より臨床検査専門医・管理医審議会のなかに構成されSubspecialty検討委員会となった。
- ②日本専門医機構よりサブスペシヤルティ領域の新規募集スケジュールに関する通知があったが、日本専門医機構におけるサブスペシヤルティの設置の目安基準を満たしていないため、今後の継続的な課題として取り組むこととし、新たなサブスペシヤルティ専門医の情報収集や必要性の検討を行う予定である。

**29) 2022・2023年度臨床検査専門医認定試験実行委員会（委員長：古川泰司）**

- ①第 2 回機構専門医試験、第 39 回臨床検査専門医認定試験は、帝京大学霞ヶ関キャンパスにて 8 月 7 日（日曜日）に 1 日で執り行われた。
- ②機構専門医受験者 12 名、学会専門医受験者 9 名の申込があった。
- ③辞退者が 3 名おり（全て学会専門医で全科目受験者）18 名が受験した。
- ④委員会判定会議では、機構専門医受験 12 名中合格 11 名、学会専門医受験 6 名中合格 4 名と判定された。

**30) 2022・2023 年度臨床検査管理医認定試験実行委員会（委員長：山田俊幸）**

- ①第 14 回臨床検査管理医 講習会・認定試験 9 月 4 日に順天堂大学で実施し、38 名が受験し 37 名が合格となった。

**31) 日本専門医機構認定臨床検査専門医研修プログラム認定委員会・日本専門医機構認定臨床検査専門医更新資格審査委員会（委員長：山田俊幸）**

- ①2023 年度専攻医募集用の研修プログラム（新規、更新、変更）の一次審査を行い、日本専門医機構に報告した。
- ②2022 年日本専門医機構基本領域臨床検査専門医認定試験受験希望の 2022 年 3 月専門研修修了専攻医について、研修内容の一次審査を行い、日本専門医機構に報告した。

- ③機構専門医の認定、更新単位となる共通講習と臨床検査領域講習の審査、認定を行い、共通講習に関しては審査結果と開催後報告を行った。
- ④2022年度の日本専門医機構基本領域臨床検査専門医の更新審査を行い、学会専門医審議会、その後日本専門医機構に報告した。
- ⑤専門研修プログラム、専攻医からの問合せ等の対応をした。